

2018年度 事業報告

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

1 会員数の状況 (2019年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (1口5千円)	107	(117)
団体正会員 (1口1万円)	23	(22)
特別正会員 (5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (1口2千円)	98	(97)
団体賛助会員 (1口1万円)	2	(2)
特別賛助会員 (3万円以上)	1	(1)
企業賛助会員 (1口10万円)	0	(0)

2 会議の開催の状況

(1) 総会・理事会

2018年

5月20日	理事会 (金沢マンテンホテル)
6月16日	総会 (豊田市自然観察の森ネイチャーセンター研修室)

2019年

3月31日	理事会 (東京・台東区いきいきプラザ)
-------	---------------------

(2) 共同代表会議・運営会議

2018年

4月12日	運営会議
5月2日	運営会議
6月8日	運営会議
7月10日	運営会議
8月2日	運営会議
9月3日	運営会議
9月27日	運営会議
11月1日	運営会議
11月29日	運営会議
12月23日	拡大共同代表会議 (東京・台東区いきいきプラザ)

2019年

1月18日	運営会議
2月15日	運営会議
3月22日	運営会議

3 事業の実施の状況

(1) 調査研究事業

2018年

- 4月13、14、20日 シギ・チドリ部会会議（福岡市、鹿島市）
- 4月17日 モニタリングサイト1000（MS1000）シギ・チドリ類調査打合せ
バードリサーチと
- 6月30日 講演会「ヘラシギとシギ・チドリ類の現状と日本からできる協力」（習志野市）
開催
- 7月1、4日 報告会「九州の干潟は渡り鳥の国際空港—今、私たちにできることは何か？」
（八代市、中津市）開催（8日に予定していた鹿島市での会合は豪雨のため中止）
- 10月1日 二国間渡り鳥保護条約・協定等支援会議
- 11月8日 東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ（EAAFP）国内
連絡会
- 11月21日 北極圏渡り鳥保護イニシアティブ（AMBI）ワークショップに向けた打合せ
- 12月3～4日 EAAFPヘラシギ特別部会会議（中国・ハイナン島）
- 12月5～8日 AMBIワークショップ（同所）
- 12月9～14日 EAAFP第10回パートナーシップ会議（同所）
- 12月19日 MS1000シギ・チドリ類調査第3期取りまとめワーキンググループ会議

2019年

- 2月2日 シンポジウム「九州から、湿地・ヘラシギ・シギ・チドリたちを守る」（福岡市）
開催
- 2月25日 MS1000検討会

(2) 保全・再生事業

2018年

- 6月6日 第64回水田決議円卓会議準備会開催
- 6月26日 第65回水田決議円卓会議準備会開催
- 7月21日 第5回生物の多様性を育む農業国際会議
分科会Ⅱ「生物多様性向上に貢献する田んぼの生きもの調査」
- 8月3日 第66回水田決議円卓会議準備会開催
- 9月28日 第67回水田決議円卓会議準備会開催
- 10月23日 ラムサールCOP13（ドバイ）でサイドイベント「水田決議の次の10年」を環境
省と共同で開催
- 11月7日 第68回水田決議円卓会議準備会開催
- 12月19日 「辺野古新基地建設・土砂投入に対する抗議声明」発表

2019年

- 1月21日 第69回水田決議円卓会議準備会開催
- 3月18日 第70回水田決議円卓会議準備会開催

(3) 普及・啓発事業

2018年

- 5月22日を中心とする4～6月 湿地のグリーンウェイブ
- 6月17日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会（豊田市）開催
- 11月8日 第2回田んぼの生物多様性向上とSDGs学習会開催
- 11月8日 ラムサール条約第13回締約国会議inドバイ報告会開催

2019年

- 2月3日 海の生き物を守るフォーラム2019「連続する自然としての砂浜—その過去と未来—」(大阪ドーンセンター) 後援
- 2月24日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会(東京・八重洲) 開催
- (4) 国際協力事業
- 2018年
- 4月4日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 4月18日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 5月1日 決議等翻訳プロジェクト会議
- 5月2日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 5月16日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 5月18～20日 第13回日韓NGO湿地フォーラム(金沢市) 開催
- 6月13日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 6月20～21日 慶南ラムサール財団設立10周年記念行事(韓国・チャンウォン)
- 6月27日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 7月11日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 7月15日 第14回日韓NGO湿地フォーラム打合せ(韓国・釜山)
- 7月18日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 8月8日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 8月14日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 8月17日 決議等翻訳プロジェクト会議
- 9月4日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 9月6～7日 シンポジウム「偉大なる飛行: ファソン干潟・人々と鳥たちに」(韓国・ファソン)
- 9月8～9日 日中韓IUCN会員会合(中国・北京)(参加: 呉地・安藤)
- 9月12日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 10月2日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 10月15日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 10月16日 ユースラムサールジャパンとの意見交換
- 10月17日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 10月21～29日 ラムサールCOP13(ドバイ) 参加
会期中WWNとしてNGO会議を毎朝実施
- 10月22日 WWWN主催プレ・ラムサールCOP世界NGO会議(UAE・ドバイ)
- 10月26日 ラムサールCOP13(ドバイ)でサイドイベント「水の自然な流れ—条約の決議・指針は効果的に実施されているか」をKWNN、WWNと共同で開催
- 11月28日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 12月6日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 2019年
- 1月23日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 2月27日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 3月2、3日 KWNNと第14回日韓NGO湿地フォーラムに関する打ち合わせ(韓国・釜山)
- 3月11日 WWWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)

(5) ネットワーク推進事業

2018年

4月5日	ラムネットJニュースレター第31号発行
7月17日	田んぼ10年だより第13号発行
7月25日	ラムネットJニュースレター第32号発行
11月16日	ラムネットJニュースレター第33号発行
12月26日	田んぼ10年だより第14号発行

2019年

1月28日	ラムネットJニュースレター第34号発行
3月27日	田んぼ10年だより第15号発行

4 助成金・受託事業の状況

- (1) 地球環境基金 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト
2018年4月～2019年3月 6,000,000円
- (2) 経団連自然保護基金 シギチ・ヘラシギプロジェクト
2018年4月～2019年3月 1,000,000円

5 組織構築の到達点・課題

(1) 会員数の動向

長期的に見て会員数は増加傾向であるが、2018年度は鈍化している。

地域で湿地と生物多様性の保全に取り組む団体・個人を結ぶネットワークを構築する上で重要な団体会員が増えていないことから、新しい活動団体を取り込めていない可能性がある。

(2) 組織運営

組織運営や事業執行および予算執行についての集团的検討が遅れている。

(3) 財務状況

大口の寄付金と助成金に頼った財務状況となっている。

2018年度事業報告（プロジェクト別）

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ部会

2018年度は経団連自然保護基金助成による、ヘラシギ、シギ・チドリ類とその生息地保全のための国内プロジェクトの最終年であった。プロジェクトは、シギ・チドリ類の重要な中継地でもある有明海の3つのラムサール条約湿地を中心に、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ(EAAFP)のヘラシギ特別部会の重要メンバーを九州の重要な中継地に招き、絶滅が危惧されるヘラシギやシギ・チドリ類に情報交換を行ない、保全の動きを国内で進めることを目的として実施してきた。2018年度は同特別部会事務局次長をバングラデシュから招いた。東京湾谷津干潟、熊本県球磨川河口、大分県中津干潟で交流と情報共有を行なった。鹿島干潟でのイベントは、あいにくの集中豪雨のため中止せざるを得なかったが、市の行政担当者と共同で準備をすることができた。

●東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ (EAAFP)

2018年度は12月9－16日に第10回パートナー会議 (MOP10) が中国・ハイナン島で行われた。ラムネットJからガンカモ類専門家とヘラシギ専門家の2名が参加した。EAAFPヘラシギ特別部会は、MOP10前に同所で北極評議会の北極圏渡り鳥イニシアティブ AMBIの作業部会に併せて開かれた。AMBI作業部会ではコクガンをも対象とすることとなった。複数機関の関与で水鳥保全の取り組みの進展が期待される。国際的な枠組みの中でも、現場のNGOの役割は大きい。

[訃報] 2018年3月からEAAFP事務局長となったルウェリン・ヤン博士が2019年3月5日公務出張中心臓発作により急逝された。ラムサール条約事務局アジア太平洋地域上級諮問官などとして、フライウェイ、日本の湿地保全にも心を砕いてくださった。日韓フォーラムでのNGOを応援する発言は参加者の記憶に深く刻まれている。博士の永遠の安らぎを。

●モニタリングサイト 1000 (MS1000)

2018年度は12月19日に2013年から2017年までの第3期が終了したことに伴って、第3期の取りまとめに関するワーキンググループがもたれ、シギ・チドリ類調査検討会が2月25日に東京都で行われた。ワーキンググループによる分析は前2期に比して全般的に減少傾向となっていることが確認された。

(2) 保全・再生事業

●沖縄部会

2月に行われたラムサール条約プレCOPにて、COP13でのブルーカーボン決議を意識し、辺野古の海草藻場に焦点を置き、沖縄の干潟の状況を伝えた。昨年12月の土砂投入開始時には辺野古新基地建設・土砂投入に対する抗議声明を公表した。

泡瀬干潟では、ここ3年間ほど2－4月にホソエダアオノリ等の藻類が大発生し、貝類やサンゴ類が死滅するという現象が起きている。ホソエダアオノリの分布調査を行い、結果をもとに沖縄県自然保護課・港湾課、沖縄総合事務局を訪れ、対策を求めた。

沖縄県自然保護課に2021年の泡瀬干潟のラムサール条約登録が実現するよう、早期に特別鳥獣保護区設定を求める働きかけを行っている。

●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

・国内での活動報告

参加団体／個人数が、250程となった。新戦略策定に向け、SDGs等の学習会を2回、作業部会を4回開催。田んぼ10年プロジェクトの地域集会1回 (豊田市、参加者50名以上)、地域交流会2回 (佐久市、大潟村)、全国集会1回 (東京) を開催。生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA2018) を共催し、水田の生物多様性の分科会 (参加者50名以上) を主宰した。

・国際的な活動

ラムサール条約第13回締約国会議 (10月、ドバイ) に参加し、日韓政府、慶尚南道ラムサール環境財団と共催し、FAO、ウガンダ政府等の参加も得て公式サイドイベントを開催 (参加者80名以上) し、会議期間を通じブース展示も行った。

フィリピン・イフガオ州バナウエの棚田で田んぼの生物予備調査、イフガオ大学、フィリピン大学、現地農家などとの意見交換、ヒヤリングを行った (11月)。イラン・アンザリ湿原での調査・意見交換

は、政情不安のため中止した。

「田んぼ10年だより」を3回発行、MLでの情報共有、専用HPの更新も行った。水田部会を7回開催、農水省、環境省、国交省との水田決議円卓会議準備会を、7回（のべ70回）開催、水田の生物多様性に関わる多様な議論と提案を行った。にじゅうまるプロジェクト会議に定期参加した。水田の生物多様性のポスターが国外（ドバイ、フィリピンなど）国内の各種集会等で掲示され有効に活用された。

●条約湿地50から100へ

10月18日付けで登録された葛西海浜公園（葛西三枚洲）のラムサール条約への登録活動を支援した。ラムサール条約COP13では、日本野鳥の会東京とともに、葛西海浜公園の広報に努めた。また、ラムサール条約推進国内連絡会議（2018年12月21日）およびラムサール条約登録湿地関係市町村連絡会議（2018年11月1日、学習・交流会11月2日）に参加した。

●プロジェクトワイズII（Project WISE II）

HSBC コーポレート・サステナビリティ部からの支援5年目となった2018年度は、Project WISE II（Sustainable and Wise Use of Wetlands through Social Enterprises in Japan）と題して、12団体による国内の湿地保全を目的とした社会的企業活動を支援した。パートナー団体は、前年同様、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合（WIJ）をお願いした。

No.	活動場所	団体・組織名
1	埼玉県ほか 田んぼ	いきもの係
2	大崎市	NPO田んぼ（伊豆沼農産）
3	渡良瀬遊水地	わたらせ未来基金
4	中池見湿地	NPO法人中池見ねっと
5	豊岡市ハチゴロウ戸島湿地	コウノトリ湿地ネット
6	吉野川河口	とくしま自然観察の会
7	和白干潟	ウエットランドフォーラム
8	福岡湾	ふくおか湿地保全研究会
9	有明海	有明海漁民・市民ネットワーク
10	河北潟	河北潟湖沼研究所
11	上三川町	グリーンオイル・プロジェクト（民間稲作研究所）
12	大崎市	蕪栗ぬまっこくらぶ

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ（WGW）

2018年4月～7月をキャンペーン期間として呼びかけ、全国19の都道府県より44団体（主催団体）56タイトルのイベントが参加、全国のイベントリストをリーフレットに掲載し各地に配布した。またホームページではイベント情報だけでなく各団体や湿地の情報も合わせて紹介した。

このうち、6/15までに開催されるイベントについては、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）のグリーンウェイブ本体にも登録し、IUCN-J日本委員会が主催する「にじゅうまるプロジェクト」への登録も行った。

また、各地からいただいた各イベントの報告は、湿地のグリーンウェイブのホームページ内にて報告した。

2019年3月18日、UNDB-Jより「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに任命された。
なお、湿地のグリーンウェイブ2018へは株式会社アレフより協賛金のご支援をいただいた。

(4) 国際協力事業

●世界湿地ネットワーク (WWN)

2018年度は10月21-29日の第13回ラムサール条約締約国会議(ラムサールCOP13)の準備とネットワークの2016-2018年の戦略計画の評価検討が主である。COP13に向けては、決議案を草の根NGOの立場から分担して検討し、冒頭のステートメント、会議、サイドイベント等の活動もこの立場から臨み、WWNに対する認識は前回より高まった。プレCOP NGO会議はラムネットJの事務的準備を行なった。2018年度は2016年からのWWN戦略計画の評価を行った。組織運営に関しては前進したが広報の面での改善が必要であるとされた。市民科学による湿地調査のプロジェクトは良い結果が得られ、まもなく学術論文として発表される。水の自然な流れに関してはCOP14への働きかけに繋がるものが積みあげられている。

●日韓湿地 NGO の協力

第13回日韓NGO湿地フォーラムは、5月18日に河北潟の現地視察をした後、19日と20日にフォーラムを行った。WWNは今回議長のルイズ・ダフ氏を含めて3人がインターネットを通じて参加した。現地協力の河北潟湖沼研究所の国営干拓事業で淡水化された河北潟の地道な取り組みと汽水化を含む今後のビジョンに関する発表は水の自然な流れに関わる流域再生の取り組み事例として、ラムネットJの今後へのインパクトは大きい。

韓国における第14回フォーラムの準備に、副代表・事務局次長の6人がこれまで仲介してきた事務局長と共同代表と共に訪韓し、話しあった。

●翻訳プロジェクト

ラムサールCOP13における“水の流れ”サイドイベント開催のため、従来のCOP決議のうちから水の流れに関係する決議の洗い出しをした。また、そのうち、COP11以降の決議で邦訳が存しないものについて、一部は翻訳を進めた。

(5) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

2018年度はニュースレターを4回発行した(31号~34号)。主な記事としては、「いまこそ「開門」の声を大きく」「辺野古の新基地建設工事による環境への影響」「報告：ラムサール条約COP13(UAE・ドバイ)」「豊岡の条約湿地拡大とコウノトリの現状について」など。毎回、1000部程度印刷し、会員や関連団体に郵送したほか、各種イベントでの配布も行った。ラムサール条約COP13期間中は「ドバイ・レポート」として現地速報のニュースをPDFで3回発行しメーリングリストで配信した。